



ふるさと笠松の「ちょっといい話」第127号



第9回「道德のまち笠松のつどい」を盛大に開催

3月5日(日)に笠松中央公民館で第9回目の「道德のまち笠松のつどい」を開催しました。3階の大ホールには大勢の町内外の方が来場され、会場は一杯になりました。

つどいは2部構成で、第1部では「岐阜工業高等学校 デザイン工学科」の有志の学生さんによる道德のまち笠松への思いを発表していただきました。会場には卒業作品がずらりと並び、華やかな雰囲気醸し出していました。さらに、第3回「かさまついいね写真展」の6名(2名欠席)の入賞者の表彰式も行いました。

第2部では「七代目が語る二宮金次郎」～日常にねむる幸せの種～という演題で、金次郎の子孫の中桐万里子様(なかつら 万里子)に90分間にわたり講演をしていただきました。講演はプロジェクターを活用し、大きくはっきりした通る声で分かりやすく話されたので、90分はあっという間でした。

初夏にナスを食べたら秋ナスの味がしたことから、金次郎は冷夏を予測し、植えた稲を寒さに強いアワやヒエに植え替えさせました。この年から天保の大飢饉と後に呼ばれる冷夏が数年続き、日本中に多くの餓死者が出ましたが、金次郎の村からは1人の餓死者も出なかったそうです。このナスの話のように金次郎は①まずはよく知る。②そして行動する。このことを繰り返すことで、怒りの「なんで？」を観察の「なんで？」に変えて、知恵と工夫を生かして問題を解決していきました。「積小為大」＝「せきしょう いだい」＝小さなことを積み重ねて、大きなことを為すことが大切だと教えました。give and takeのように見返りを求めるのではなくtake and giveこそ金次郎の報徳の精神であると力説されました。「takeの達人」になりましょうと講演を結ばれました。

聴衆の皆さんはうなずきながら聞き入っていました。途中で席を立つ人がきわめて少なかったことが講演の素晴らしさを物語っていました。



↑中桐 様の講演に聞き入っている聴衆の方々

↑岐工のデザイン工学科の有志の学生さんの発表

※お詫び

前号の「ちょっといい話」126号の文の中で、「松枝小学校の全校児童にみかんを送り続けました。」というところは、「松枝小学校の児童全員にみかんを1人2個ずつ、1クラス45人×2個×6クラス×6学年分＝3,240個を送り続けました。」が正しい文です。謹んで訂正いたします。

「第9回 道德のまち笠松のつどい」の様子



中桐様は、講演前に気軽に色紙に好きな言葉を書いてくださいました。もちろん色紙には「積小為大」と書かれました。



「第3回かさまつ いいね写真展」の入賞者の皆さん。風邪などで2人が欠席されたのは残念でした。



大きな声ではっきりとした口調で話されました。とても分かりやすい講演だったという感想の方が多くみえました。



パワーポイントを使って、わかりやすい講演になるように努めてくださいました。



たくさんの方が講演を聴いて下さいました。ありがとうございました。



道德のまち推進会議の委員や笠松委員会の委員が、会場づくりや掲示物などに力を発揮してくださいました。